



御迎え人形「羽柴秀吉」（大阪府指定有形民俗文化財）
令和6年7月 ホテルニューオータニ大阪での展示風景

栗原宏武顧問 帰幽……………	12 頁
吉田玉男師匠 『菅原伝授手習鑑』成功祈願……………	8 頁
寺井種伯名誉宮司 神社葬……………	6 頁
寺井種治宮司 昇進……………	5 頁
奉賛会設立総会……………	5 頁
千百二十五年式年大祭	
大阪本社ビルの陶板「天神祭」……………	4 頁
りそなグループ 境外の天満宮・天神祭（九） 「書道ワークショップ」……………	3 頁
彬子女王殿下	

表紙解説

御迎え人形シリーズ③

羽柴秀吉

本稿、疑う余地なく、NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」に便乗です。歴史上の〈秀吉さん〉の説明は不要でしょうから、「人形」にかかわる疑問や新知見を。早速、本題。

●いくつも名のある〈秀吉〉人形！

やはり人形浄瑠璃・歌舞伎から？

従来、指摘がないようですが、この〈秀吉さん〉人形にはこれまでいくつも名前がありました。詳細は略しますが、当宮の古文書や資料のうち、「地車番付」と「御迎船人形絵付一覧」（仮称。十九世紀の正遷宮等のとき当宮周辺に飾られた人形紹介の一枚刷パンフレットの類。管見では十二種類刊行。下図はその〈秀吉さん〉を抜き出した）があり、そこに記される名前は、たとえば、

享和元年・地車番付Ⅱ「此下東吉」
文化十三年・地車番付Ⅱ「太功」
弘化二年・絵付一覧（このときは

五種類が刊行され、名前は三種）Ⅱ

「羽柴久吉」「木下藤吉」「此下東吉」

翌年、弘化三年刊行の『御迎船人

形図会』（この書籍は従来も参照さ

れるので皆様にもお馴染み）にはようやく「羽柴秀吉」が登場します。しかしその後も定着せず、

嘉永五年・地車番付Ⅱ「木下藤吉」
嘉永五年 絵付一覧Ⅱ「此下東吉」
明治でも名前のゆれはつづいて、
明治十一年・絵付一覧（このとき

三種類刊行、名前も三種）Ⅱ「此下

東吉」、「羽柴秀吉」、「木ノ下藤吉」

これほど名前の変わる御迎え人形は他に見当たりません。
さて、ここで、今は聞き慣れぬ「此下東吉」は「木下藤吉（郎）」

のもじりで、人形浄瑠璃・歌舞伎の「祇園祭礼信仰記」（宝暦七年豊竹座初演）、「絵本太功記」（寛政十一年豊竹座初演）で

の〈秀吉さん〉の役名、
「此下東吉 実 は 真柴久吉」
「羽柴秀吉のもじりは

一目瞭然」としてよく知られ、我らが御迎船人形の名前への反映も一目瞭然。

そして結句、豊臣秀吉や太閤とならず、真柴久吉の響きを保ってか、羽柴秀吉のまま今に至る。

天下獲り上昇中の〈秀吉

さん〉をその名前に見るのも見当違いではないとしても、やはり（あるいは〈秀吉さん〉なればこそその憚りから？）他の人形には指摘される人形浄瑠璃・歌舞伎からの影響を考えたいところ。

ちなみに現行の歌舞伎では、この人形の姿や衣裳は、「絵本太功記」よりは「祇園祭礼信仰記」金閣寺の場の真柴久吉のそれと類似します。

●衣裳・ポーズの疑問、
とくに左手の向き？

左の図で見ると、衣裳やポーズも現状の人形とは違っており、絵画が常に実態を写すのではないにせよ気になるところではあります。

衣裳のうち胸の紋に着目すれば、弘化三年の『御迎船人形図会』では五三桐（羽柴の時期使用）、現状は五七桐（正親町天皇に賜る、豊臣期）の違いがあり、以前紹介した高綱／

幸村人形同様、明治頃に衣裳修正があったかと推測されます。
また左手をかざして遠くを見やるポーズから現状の人形は手のひらを上に向け、親指と中指をつける不思議な形態を示します。



左の図で見ると、衣裳やポーズも現状の人形とは違っており、絵画が常に実態を写すのではないにせよ気になるところではあります。

衣裳のうち胸の紋に着目すれば、弘化三年の『御迎船人形図会』では五三桐（羽柴の時期使用）、現状は五七桐（正親町天皇に賜る、豊臣期）の違いがあり、以前紹介した高綱／

幸村人形同様、明治頃に衣裳修正があったかと推測されます。
また左手をかざして遠くを見やるポーズから現状の人形は手のひらを上に向け、親指と中指をつける不思議な形態を示します。

この他疑問はまだあります。とりわけ〈秀吉さん〉では芝居絵や舞台写真、さらに寛政年間の刊本『絵本太閤記』との関係という大問題が控えますが、鋭意調査継続中とお断りして、芝居に寄せて幕切風にさらばさらば、と後日を期して。

（文化研究所 鈴木幸人）



「首」とともに通常見ることのない「箱胴」（これに首、腕、脚を接続する）も写真を載せておきます。この箱胴と左腕（接続部に「太公」の墨書あり）との接続の向きが変更されたか、と想像をめぐらせているからです。

この他疑問はまだあります。とりわけ〈秀吉さん〉では芝居絵や舞台写真、さらに寛政年間の刊本『絵本太閤記』との関係という大問題が控えますが、鋭意調査継続中とお断りして、芝居に寄せて幕切風にさらばさらば、と後日を期して。

彬子女王殿下、御来宮

「心游舎」の書道ワークショップ



とができる土壌を形成したい」、そしてその核となる子どもたちに「本物の日本文化にふれる機会を提供したい」。そんな彬子女王殿下の思いに共鳴した有志一同で設立した団体が私たち心游舎です。

この趣旨に基づいて、「心游舎」は、日本神話の講座や、狂言・歌舞伎のワークショップ等々、日本の伝統文化への理解を深める多彩なプロジェクトを開催されています。

去る三月三十日、当宮の天満宮会館において、「心游舎」による「書道ワークショップ」が開かれました。「心游舎」とは、平成二十四年四月一日設立の一般社団法人で、三笠宮家当主の彬子女王殿下が総裁を務められています。その設立趣旨は、同法人のホームページに次のようにみえます。

「日本の伝統文化が生き続けるこ

実は、去る平成二十五年六月二日には、当宮において「日本茶ワークショップ」が開かれました。このときも、彬子女王殿下御臨席のなか、参集殿において子どもたちが煎茶のお点前を経験させていただきました。そして、今回は「書道ワークショップ」です。当宮の御祭神・菅原道真公は、「学問の神・書道の神」とし

て崇敬されていますから、まさに当宮らしい催しとなり、児童、大人合わせて二十名が参加しました。

まず、彬子女王殿下が、開会のご挨拶で「筆を取り、書に触れることの大切さ」を説かれ、その後に書家・神郡宇敬先生の講義が始まりました。

講義では、初めに書道道具の基本的な説明を受け、その後に「とめ・はね・はらい」の筆遣いなどの実技練習、終始和やかな雰囲気の中、最後に「はがき」を作成して終わりました。

「心游舎」では、伝統文化とは保存の対象ではなく、私たちの日々の生活の中に生き続けていくものだと考えられています。書道について言えば、近年のパソコンの著しい普及によって、私たちは日常生活の中で、「筆」



どころか「ペン」でさえ持つ機会が減ってきています。

パソコンや携帯電話のメールなどが主たる伝達ツールになっている今だからこそ、時には、ハガキや手紙を筆で書く機会を持ちたいものです。今回のワークショップの締め括りが、「はがき」の作成だったことに、意義深さを感じました。



境外の美満宮・天神祭 ㊦

りそなグループ大阪本社ビルの陶板「天神祭」(生田花朝女原画) 商都大阪の中心地、船場に聳えるりそなグループ大阪本社ビル。そのりそな銀行大阪営業部エントランスに掲げられているのが、今回ご紹介の陶板「天神祭」です。原画の作者



陶板「天神祭」生田花朝女原画

は近代大阪画壇を代表する日本画家、生田花朝女(二八八九〜一九七八)。「大阪に生まれたのやから大阪を」と浪速風俗を好んで描き、なかでも天神祭を題材に十数点制作したとい



りそなグループ大阪本社ビル

い、そのうちの一点が原画となった「天神祭」です(大阪府立中之島図書館蔵、昭和十年頃)。本誌八一号で紹介した大阪国際会議場の天井画のひとつも同じ作品にもつきます。陶板の「天神祭」は昭和五二年(一九七七)大塚オーミ陶業の製作、高さ二四〇×幅四二〇cmの大作です。(この陶板技術が後に大塚国際美術館に結実することになります。)翌年一月、りそな銀行北浜支店(当時大和銀行北浜店)に設置。難波橋に近く画題にもふさわしい場所ですが、令和四年六月、同支店改装にあたり、「多くの方々に見てもらえる所」と現在地に移設されたとのことですが、アクセスは大阪メトロ堺筋本町駅から徒歩二分。花朝女の描き出した往時の船渡御の風情をご堪能ください。

社務所 電話番だより

よくあるお問い合わせ

『端午の節句 粽』



年中行事の日に食べる特別な食べ物「行事食」といいます。

「端午の節句」の行事食は、関西は主に粽、関東は柏餅と分かれていましたが、近年は関西でも柏餅を見かけるようになりました。

柏の葉は新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、子孫繁栄の縁起物として好まれたようです。

粽は、古い時代には笹の葉や茅の葉に餅米や粳米を包んで円錐形にして蒸したり、湯がいたりしたのですが、甘いお菓子になったのは江戸時代以降に砂糖が普及してからのことです。

その起源は古く、中国の戦国時代に楚の国の政治家で詩人であった屈原が、五月五日に入水した時に民衆がこれを悼んで供え物を川に投じた

故事にちなむと伝えられますが真偽は不明です。

日本では承平年間(九三二〜九三八)の『和名類聚鈔』では、「知萬木」と表記され、餅米を葉で包み灰汁で煮込むと記されています。灰汁の殺菌力や防腐作用を期待した保存食でした。

餅米を包む葉は、現在の「笹の葉」ではなく、「茅の葉」でした。「茅の輪」と同様に殺菌効

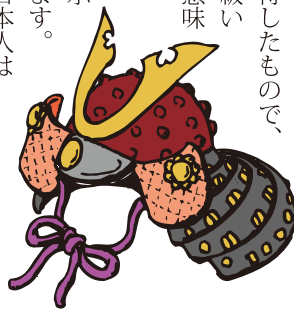
果を期待したもので、節句に祓い

清めの意味合いがあつたことを示しています。

太古の日本人は

祓いとなる食物をいただくことによつて、身体の内側から清められると考えたのでしょう。祓いの文化は我が国の特徴ともいえる国民性だといえます。

その年の五節句(人日・上巳・端午・七夕・重陽)などには、その日に関係する伝統的な行事食を家族揃っていただきながら、その由来などをお話して家族団らんのひと時を楽しまないものですね。



千百二十五年式年大祭

奉賛会設立総会 開催

明年令和九年の式年大祭に向け、三月二十三日に天満宮会館において奉賛会の設立総会が開催されました。当日は会長以下役員など四十八名が出席し、組織構成や大祭奉賛に関する議事が決議されました。



勇介様をはじめとして、各奉賛会の代表世話人に合計二十名の方々が就任されました。また、監事として氏子総代の高橋知史様が選任され、今後は氏子地域の役員や、天神祭の講社連合会から講演などに世話人としてご協力いただきます。

総会終了後には、本殿において奉賛会設立奉告祭が斎行され、続いて懇親会が開かれ、和やかな中にも奉賛募財の機運が高まるような歓談が進められました。

趣意書

令和九年（二〇二七年）は延喜三年に菅原道真公（天神さま）がお亡くなりになられて千百二十五年に当たります。天神さまは誠の神、書道・詩文の神、そして学問の神として全国津々浦々約一万二千社の神社

にお鎮まりになっておられ、二十五日を御縁日としていて、当宮では天神祭をはじめ多くの神事を二十五日に執り行っています。又、二十五年毎に式年大祭を斎行しており、これまで様々な記念事業を行って参りました。

当大阪天満宮では節目である千百二十五年大祭に向けて、御神徳を偲び御神慮をお慰め申し上げると共に益々の御威徳の発揚を祈念致しまして奉賛会を結成し、記念事業として本殿の御修復をはじめ、境内の整備事業などを行い千百二十五年式年大祭を斎行致します。

事業計画

事業概要

- 一、御本社拝殿、付属社殿等の修復
- 二、千代崎行宮の社殿、社務所等の建設
- 三、電気配線、防火防災設備等境内全域の設備保守
- 四、神具収蔵庫の建設及び宝物類の修復・調達

事業費用概算

合計一〇億円

〔内訳〕

- 一、御本社拝殿、付属社殿等の修復 三億円
- 二、千代崎行宮の社殿、社務所等の

建設

七千万円

- 三、奉祝祭（行事、直会、記念品等） 三千万円
- 四、奉賛会運営費（会費、事務費等） 一千万円
- 五、神具収蔵庫の建設及び宝物類の修復 五億九千万円

事業資金調達

大阪天満宮自己資金及び奉賛募金収入にてまかなう。

- 一、自己資金 五億円
- 二、奉賛募金目標額 五億円

寺井種治宮司 昇進



去る三月一日付で、寺井種治宮司が浄階ならびに神職身分一級に昇進し、神社本庁において授与式が執り行われました。

寺井種伯名誉宮司 神社葬

去る四月二日午後七時三十七分、寺井種伯名誉宮司は加療先の北野病院において帰幽致しました。

四月六日に「通夜祭」、七日に「密葬祭」を当宮参集殿において斎行いたしました。

寺井種治宮司が喪主となり、斎主は夜疑神社 原充昭宮司、副斎主は八坂神社 西野千尋宮司が奉仕、名誉宮司親戚一同の参列のもとに執り行われました。

そして、四月二十八日に「本葬祭」を神社葬として斎行いたしました。

葬儀委員長を神社本庁総長 石清水八幡宮 田中恒清宮司、斎主を坐摩神社 渡邊紘一宮司、副斎主を住吉神社 糸数智子宮司、祭員を八坂神社 西野千尋宮司・奈加美神社 北岡忠澄宮司・熊毛神社 渡邊信敏宮司が奉仕するなか、神社本庁 鷹司尚武統理(代理 吉川通泰副総長)、明治神宮 中島精太郎名誉宮司、フジオフードグループ本社 藤尾政弘社長各位から、哀悼の念溢れる弔辞をいただきました。

参集殿内に二百席、七百基もの供花が建ち並ぶ境内にも、五二〇席の席を設けましたが、弔問の皆様の数

には及ばず申し訳ない仕儀となりましたことお詫び申し上げます。

左に当日に配布された喪主・寺井宮司の挨拶文を再録しておきます、

ご挨拶

本日はご多用のところ大阪天満宮名誉宮司 寺井種伯神社葬に御参列賜り厚く御礼申し上げます

かねてより病氣療養中のごさいました名誉宮司は去る令和八年四月二日九十二歳をこの世の限りとし安らかに旅立ちました

名誉宮司は昭和三十三年三月に國學院大學神道専攻科を卒業して以来六十年余り神職として神明奉仕に勤めてまいりました

平成元年十二月には大阪天満宮宮司を拝命し氏子地域のために尽力し平成六年には日本三大祭のひとつとして謳われる天神祭をオーストラリアのブリスベンにて斎行しに日豪両国の親善の役割を果たしました
人が集まる事を好み祭を愛し氏子の方々とお過ごし時間を何よりも大切にしていました

そして常日頃より神社の事を想い又氏子地域を大切にしなければなら

ないとわたくしたち職員模範となり神職としての在り方を示しました
その教えと在りし日の神職としての姿勢はわたくしたちの胸に深く刻まれこれからの道標となつていきます

故人の遺志を引き継ぎ氏子地域に並びに大阪天満宮の更なる発展のためそして職員一同日々神明奉仕に勤めてまいります

ここに故人が生前皆様より賜りました数々のご厚誼に対し謹んで御礼申し上げます

令和八年四月二十八日

大阪天満宮

宮司 寺井種治



寺井種伯名誉宮司 略歴

昭和八年八月十五日に生を受ける

昭和三十二年三月 関西学院大学 文学部史学科 卒業
 昭和三十三年三月 國學院大學 神道専攻科 卒業
 昭和三十三年四月 明治神宮 奉職
 昭和三十六年四月 明治神宮権禰宜 拝命
 昭和三十九年十二月 大阪天満宮禰宜 拝命
 昭和四十年三月 四條畷神社宮司 拝命
 昭和四十年五月 兼ねて大神社宮司

菅原神社宮司

北野神社宮司

龜神社宮司 拝命

昭和四十七年六月 大阪府神道青年会 会長 就任
 昭和四十七年六月 全国神道青年協議会 常任理事 就任
 昭和五十二年六月 大阪府神社庁 協議員 就任
 昭和五十二年六月 全国神社スカウト協議会 理事 就任
 昭和五十八年四月 大阪府神社スカウト協議会 理事長 就任
 平成元年四月 全国神社スカウト協議会 副理事長 就任
 平成元年十二月三十一日 大阪天満宮宮司 拝命
 平成二年二月 國學院大學院友会 評議員 就任
 平成二年二月 神社本庁参与 就任
 平成四年六月九日 神道政治連盟大阪府本部 本部長 就任
 平成五年三月 大阪国学院理事 就任
 平成五年三月 神職身分浄階一級
 平成五年四月 國學院大學院友会 評議員(重任) 就任
 平成五年四月 学校法人浪速学院 理事 就任
 平成五年五月 神宮崇敬会 評議員 就任

平成七年四月 大阪府神社庁 理事 就任
 平成八年二月 大阪府神社庁創立五十周年記念史編纂委員 就任
 平成八年三月 大阪国学院理事(重任) 就任
 平成十年三月二十八日 大阪府神社庁 副庁長 就任
 平成十年六月 日本会議 大阪府運営委員長 就任
 平成十年七月一日 神道政治連盟 中央本部 副幹事長 就任
 平成十年九月 神宮崇敬会大阪府本部 常務理事 就任
 平成十一年二月三日 神職身分特級
 平成十三年三月 神社本庁評議員 就任
 平成十三年三月 國學院大學評議員会 議長 就任
 平成十三年四月 神宮評議員 就任
 平成十六年三月 神社本庁評議員(重任) 就任
 平成十六年三月二十八日 大阪府神社庁々々長就任
 平成十六年五月 神宮参与 就任
 平成十六年六月一日 神社本庁理事 就任
 平成十七年七月一日 大阪国学院理事長就任
 平成十八年四月一日 伊勢神宮式年遷宮奉賛会地区本部 設立世話人 就任
 崇敬会理事 就任
 伊勢神宮式年遷宮 奉賛会理事 就任
 伊勢神宮式年遷宮 奉賛会大阪本部 副本部長 就任
 大阪府神社庁々々長(重任) 就任
 神社本庁評議員(重任) 就任
 神社本庁理事(重任) 就任
 神社本庁常務理事 就任
 学校法人浪速学院 名誉理事長 就任
 神社本庁長老の称号を受く
 大阪天満宮名誉宮司の称号を受く

文楽公演 『菅原伝授手習鑑』

吉田玉男師匠が成功祈願

梅王丸・松王丸・桜丸 去る四月

四日～二十六日に、国立文楽劇場で『菅原伝授手習鑑』が上演されました。言わずと知れた文楽三大名作の一つで、菅原道真公(劇中では「菅丞相」の太宰府配流と、道真公に仕える人々の別れを中心に物語が展開されました。

今回の上演は、梅王丸・松王丸・桜丸という三つ子の兄弟に焦点を当てた構成。延享三年(一七四六)の初演時に大坂市中で話題となっていた三つ子誕生を芝居に取り入れたものと伝わっています。劇中ではこの三つ子の親が白太夫という設定で、道真公に太宰府まで付き添って仕えた度会春彦がモデルとなっています。

『菅原伝授手習鑑』三段目の切では、白太夫の七十歳の賀の祝に三つ子が集まります。そして、菅丞相流罪の原因を作った桜丸が責任を感じてやむにやまれず切腹するのですが、白太夫はその運命を受け入れて死にゆく息子を弔います。親白太夫役は文楽の老け役の中でも屈指の難役と

されています。

吉田玉男師匠の参拝 上演に先立つ三月二十四日には、人間国宝・日本芸術院会員の二代目吉田玉男師匠が、実際の舞台で使用する親白太夫の人形を遣って、大阪天満宮本殿と境内の白太夫社を参拝し、公演の成功を祈願いたしました。文楽人形が白太夫社を参拝するのは、おそらく



史上初めてのことに。多くの新聞記者たちの取材もあり、世間の注目を集めました。

参拝後に天満宮会館で行われた記者会見で、公演にかける意気込みを聞かれた吉田玉男師匠は次のように答えました。

親白太夫は、桜丸が襖の後ろで話を聞いていることを気にしながら演じなければならぬ難しい役です。前回の令和三年に初役で勤めたときは七十歳前でしたが、今は白太夫の年齢を越えました。台詞の一言一言を大切に

にして、工夫しながら演りたいと思います。今回、白太夫社に初めて参拝させていただき、すごく力になりました。

事実、公演に際しては熱演を披露し、観客の拍手喝采を浴びました。

なお、四月文楽公演期間中は、文楽劇場二階ロビーのショーケースでも、今回の参拝の様子を展示させていただきますました。

特別講演 また、期間中の四月十二日には、大阪天満宮文化研究所の高島幸次氏に『菅原伝授手習鑑』目からウロコの裏話』と題した講演をいただきました。

高島氏は、三つ子の牛飼(とわ)い舎人と

して登場する梅王丸・松王丸・桜丸の名は、劇中に語られる歌「梅は飛び桜は枯るゝ世の中に何とて松のつれなかるらん」に由来するが、それだけではなく、三人が成人となっても「丸」の付く幼名を名乗っていることに注目すべきだと指摘。牛飼い舎人は牛飼(とわ)い童(わらわ)ともいい、成人後も髪を結い上げない幼児の髪型のままで、呪術的な力を持つと信じられていた。三つ子の「丸」もそこに響かせた名だ、というような幾つもの蘊蓄に溢れた内容でした。

お陰をもちまして、四月文楽公演は無事に千種楽を迎えることができました。この度の御縁に深く感謝し、大阪天満宮様の益々のご盛栄を祈願して擲筆の辞といたします。

(国立文楽劇場営業副支配人

中澤久富)



天神さまと私(10)

小川 富江

私は平成十八年(二〇〇六)に南森町に引っ越して来ました。引っ越した当日には、氏神である大阪天満宮に献酒を持って引っ越しのご挨拶に参拝しましたが、当時は子育ての真っ最中でもあり、その後しばらくは、時折お参りをする程度でした。

変化があつたのは、平成二十六年(二〇一四)の時です。夫が海外に単身赴任することになり、私に何か出来ることはあるだろうかと考え、それ以後は毎日天神さんに家族の無事をお祈りすることにしたのです。

お陰様で、夫も無事に帰国しましたが、それでもなお変わらずに、毎日お参りを続けました。

令和二年(二〇二〇)、世界中に新型コロナウイルスが蔓延した頃、何故か突然「天神さんを掃除したい!」と思ひ、大阪天満宮の神主さんにお頼みし、境内を掃除させて頂ける事になりました。

それからは、雨の日も、病気の日も、大阪にいない日以外は、毎日掃除させて頂いております。不思議と「今日は嫌だな、掃除したくないな」と思う日はありません。

最近では挨拶をして下さる人も増え、お茶の差し入れまで頂ける事もあります。また、真夏に境内の清掃をしていると、「大変ですねえ」と心配して下さる人もいます。

一生懸命掃除をして、綺麗になった境内を見ると私の心もスーッとします。



毎日いいこともあれば悪いこともあります。不思議と大丈夫だと思えます。だからこれからも掃き続けます。神様、今日もありがとうございます。

天満宮スカウト 活動日誌

「わくわく自然体験」を開催

「母の日」の五月十日、当宮の梅香学院において、スカウト体験希望者を対象にした「わくわく自然体験」を開催しました。

現在のビーバースカウトたちに加



え、スカウト活動に興味を持つてくれた四人の子たちが参加してくれました。

今回の「わくわく自然体験」では、「母の日」にちなんで、ご家族へのプレゼントとして「バスケットブーケ」を作りました。

子どもたちは、一生懸命に作ったブーケと共に、「いつもありがとうございます」の気持ちを、ご家族へ上手く伝えられたでしょうか。そして、体験者の子たちには、スカウト活動の魅力は上手く伝わったでしょうか。

ガールスカウトの活動

天満宮境内の一隅で、幼稚園年長から大学生までの幅広い年代でガールスカウト活動を行っています。

冬になるとしめ飾りクラフトを作成。年少者は梅のぬり絵飾り、年長者は石鹼カービングの梅花飾りと、天満宮らしさを特色としています。



お餅つきでは、天満宮スカウト一体となり、準備からお鏡餅づくりを行い、お正月を迎えます。

新年互礼会では、学校では聞けない宮司さんからの興味深いお話を拝聴します。その後、大学生リーダーお手製の小豆粥に舌鼓を打ちます。

春の年度末の泊舎営では、一年の活動を振り返り活動成果としてガールスカウトバッジを取得します。入団の頃は一人で宿泊するのが不安だった小学生が、他のスカウトと笑顔で活動をしている様子はたくましく、とても頼もしいものです。

地域での社会体験を通して、子ども達が楽しみながら自立と周りへの気遣いを身につけていける活動を目指しています。



天満天神研究会

(天天研)の報告

令和九年(二〇二七)「菅公御神退

千百二十五年式年大祭」を見すえて、

天満天神研究会(略称「天天研」)を継

続的に開催しております。多様な専

門分野の研究者が集い、天神信仰の

諸相、とくに当宮の文化や歴史につ

いての従来の研究を洗い直して、改

めて成果公開をめざしています。

第九回、第十回の研究会について、

報告者(所属等)、報告題目、参加

者を記録しておきます。各回とも会

場は当宮文華館三階、午後五時から

の開催でした。

●第九回 天満天神研究会

令和七年十二月十三日

竹居明男(同志社大学名誉教授)

「架蔵「天神信仰」資料紹介(第二

回)―伝足利義政筆「東帯天神像」

および慶応四年〜明治三年の『諸祝

詞集』―」

●第十回 天満天神研究会

令和八年四月十八日

①松浦清(大阪工業大学教授)

「大阪天満宮所蔵「天神画像」再調

査の中間報告」

②工藤裕司(大阪府教育庁文化財保護課文化財企画グループ技師)

「森鳳聲作菅公像について」

③服部麻衣(大阪市立住まいのミュージアム大阪くらしの今昔館学芸員)

「大阪天満宮所蔵宝物展(仮称)の企画進捗報告」

なお、本年(令和八年)一月から当宮所蔵の天神画像の再調査を開始しております。当宮には八十件に及ぶぎわめて多数の天神画像が伝来し、

先年の大阪府文化財指定にかかわる不備もあり、かねて再調査の必要性をご提案いただいていた松浦清先生はじめ天天研メンバーに呼び掛けて

取り組んでいます。第十回の報告は同調査に基づきますが、成果公開の場として、天神画像をはじめ、選り

すぐりの当宮(宝物・文化財)を来年四月〜六月、大阪くらしの今昔館で皆様にご覧いただく予定です。

*第九回、第十回の出席者は、前記報告者の他、北山円正、増井正哉、西山由理花、町田大悟、藤立紘輝、

林潤平、長谷川貴信、南坊城光興、大田直美、北上真生、吉田公樹、浦

田佳彰、仲真矢、白杵浩秀、高島幸次、鈴木幸人(敬称略・順不同)

(文化研究所鈴木幸人)

浪速菅廟吟社詠草

深翠 浦田佳彰撰

十二月席題 除夜偶成

貴山 忠津清治 大阪

鳥飛兔走變陰陽 幻想心頭夢裏鄉

故老無為臻晦夜 梵鐘清響在空房

《訓読》鳥飛兔走して陰陽を變じ、

幻想の心頭夢裏の郷、故老は無為に

して晦夜に臻り、梵鐘清響する空房に在り。

《通釈》月日の巡り速く季節を進め

幻想に沈み夢に故郷を思う。老人は

無為に大晦日を迎え、寺の鐘が清く

響く寂しい部屋に在り。

一月課題 明

鵬城 北野修司 大阪

四節風光窗牖回 宵宵皓皓几燈陪

茅齋投影除舒卷 凡愚一言明解哈

《訓読》四節風光窗牖に回り、宵宵

皓皓たる几燈に陪す、茅齋に影を投

じ除るに巻を舒べ、凡愚は一言の明

解に哈ぶ。

《通釈》四季の風光は窓に巡り、夜

ごとに皓皓なる机の灯火に近く居り、

粗末な部屋に身の影を投じ本を開く

私のような凡愚は本の明解なる一句

に喜んでゐる。

二月課題 大雪道情

粕春 中島 結樹 神奈川

江村二月一枝紅 尉鳥啼聲入雪中

幽徑松裝無客訪 乾坤寂寞待東風

《訓読》江村の二月一枝の紅、尉鳥

の啼声は雪中に入る、幽徑の松は装

へど客の訪ふ無し、乾坤寂寞として

東風を待つ。

《通釈》大河の側の村は梅の樹の枝

一本が紅に色付く。ジョウビタキの

鳴き声は雪の中に消えてゆく。ひっ

そりとした径に生える松の木は雪に

白くなり客人が来ることもない。天

地は寂莫として春風を待つ。

三月課題 梅柳知春

琴鈴 和田 啓子 兵庫

梅花素艷点紅英 三月東風翠柳輕

春雨洗凍寒色去 黃鸝百囀唄昌平

《訓読》梅花の素艷・紅英点す。

三月の東風に翠柳は輕し。春雨は

凍りを洗い寒色去り、黄鸝は百囀

昌平を唄う。

《通釈》梅の花の白色紅色が現れ

三月の春の風に柳の緑は軽やかに

靡く。春雨が氷を洗って溶かし、

寒色は去った。鶯が何度も囀り、

天下に昌平が訪れたことを唄う。

毎月第一日曜に詩会を行います。通

信会員募集中です。連絡先

kambyo-ginsha@outlook.jp

広報室だより

毎月一日限定色

『絆守(きずなまもり)』

本年五月一日から頒布しています
『絆守【白金】毎月一日限定色』を
ご紹介致します。

平成二十九年に頒布が始まりました
この絆守は、水引で奉製されてお
りアクセサリー感覚で身に着けてい
ただく腕輪型のお守りとなり、大変
人気がございます。

水引の『結う・結ぶ』には『人と
人』『心と心』を繋ぐ意がございま
して良き縁を引き寄せる開運招福を
祈念しており、お色は五種類ござい
ます。

此度、頒布始めより十周年を迎え
ることとなりましたので、節目の記
念に『毎月一日限定色』を奉製する
運びとなりました。

限定色は清

らかな白色と
華やかな金色
にて奉製され
た【白金】で
ございます。



朔日参りの際には是非、限定色の
『絆守』をお受けください。

「てんまんGood!」

プロモーション開始

一昨年の天神祭にむけてリリース
しました大阪天満宮オリジナル楽曲
「てんまんGood!」は、氏地エリ
アの皆様とともに地域の活性化をは
かるため制作したものです。



- ①オリジナル☆バージョン
- ②リプライズ☆バージョン
- ③音頭☆バージョン
- ④えびす祭☆バージョン



☆大阪天満宮「てんまん Good!」プロモーション専用マーク

プロモーションムービーは
コチラから▶

【オリジナルバージョン】
【リプライズ&音頭バージョン】
【えびす祭バージョン】歌詞はコチラから▶



本年から、本格的に当宮境内施設
は勿論、様々な場所でプロモーション
をしてまいります。
詳細は大阪天満宮公式サイト「お
知らせ」に随時アップしてまいりま
すので、皆様も色々なイベントや行
事にふるってご参加ください。

大阪天満宮献詠 風月社
令和七年十月〜令和八年三月

令和七年

十月兼題 小春日

彼岸花咲き終りたり小春日の
街に流るる太鼓の音色 乾 恵子

誘はれて誘ひて大阪公園へ
小鳥と遊ぶ小春のひと日 家治 綾子

十一月兼題 霜

朝まだき庭に落ちたる紅き葉に
霜敷き添えて白く色づく 忠津 清治

河内野の刈田にしろき霜降りて
この朝まだき志貴の峯さゆ 松村 曉二

十二月兼題 師走

澄み渡る師走の空にひとすじの
飛行機雲のくずれ去りゆく 鈴木 敬子

日ざしまだ強くぬくもりある師走
六つ割り白菜干されつやめく 北岡 由紀子

令和八年

一月兼題 松

寒風に枝葉もかれて松の木は
たえてしのひて春遠からし 伊藤 涼子

さはらかに整へられし黒松に
あは雪ふりて青のきらめく 南口 一二美

二月兼題 水

掬ぶべく見れば氷れる石清水
影さへ冴ゆる有り明けの月 木下 常世

春風に庭の水もとけそめて
池の汀に寄するさざ波 小林 賢太

三月兼題 春雪

旅好きの友今在らず春雪が
宿の庭石枝葉に積もる 中瀬 央子

薄ら日のひそやかに差す学窓に
桜隠しの春の淡雪 坂井田 礼子

人事任免

〈昇進〉

権禰宜 塩見 樹

権禰宜 藤井 拓郎

権禰宜 大村 高嗣

令和七年十月一日付

権禰宜 柴田 沙南

権禰宜 奥田 誠也

権禰宜 大須賀 弓菜

令和八年四月一日付

〈新任〉

総代 宮本 善樹

総代 林 秀昭

令和七年六月二十五日付

事務職 堀内 信吾

巫女 安岡 瀬奈

令和八年四月一日付

〈退任〉

巫女 唯 仁美

令和八年四月三十日付

帰幽報告

顧問 栗原 宏武(享年八十六)

令和八年三月二十一日

名誉宮司 寺井 種伯(享年九十二)

令和八年四月二日

天神祭渡御行事保存協賛会
会長代行副会長兼実行委員長

栗原宏武様帰幽



当宮顧問の栗原宏武先生におかれましては、去る令和八年三月二十一日、八十六歳にて惜しくも逝去されました。

栗原宏武先生は、昭和十四年、大阪市旭区のお生まれで、関西大学大学院法学研究科修士課程を修了後は、法曹界において、大阪高等裁判所部総括判事や、大阪家庭裁判所所長などの要職を歴任され、定年退官後は、母校の関西大学法科大学院において後進の指導に尽力されました。

天神祭との関係におきましては、平成二十四年より天神祭渡御行事保存協賛会・副会長、また平成二十七年からは副会長兼実行委員長・総奉行に就任いただきました。

長年に亘り天神祭ご齋行に尽力い

ただき、天神祭協賛会の

「会則」改正を軸とした根本的改革に邁進いただくなど、今日の協賛会の礎を築かれたその功績は計り知れません。

職員一同、先生のご遺志を継ぎ、今後も天神祭の恙なきご齋行と伝統ある渡御行事の保存継承に精進いたします。

茲に生前のご厚誼に深謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

四月二日に逝去された名誉宮司は、去る平成十四年(二〇〇二)四月には、宮司として「菅原道真公御神退千百年式年大祭」の齋行を指揮されておられ、その翌年の当社報43号で次のように語っています。

私たちは今年で千百年大祭が終わったと考えるのではなく、今後の千百二十五祭、また千五十年祭に向けて菅公様の御神徳を伝えていかなければならない、それが今年からはじまるのだということを、私も含めて当宮の神職たちが心得ておくべき



だと思っております。

悠久の歴史を伝えるとは、こういうことだと思ひ知らされました。来年四月に「千百二十五式年大祭」を迎えます。職員一同、心してご奉仕させていただきます。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第89号

令和8年6月20日印刷

令和8年6月25日発行

発行人 寺井 種治

発行所 大阪天満宮社務所

〒530 0041 大阪市北区天神橋2-1-8

TEL 06-6353-0025

印刷所 木村印刷株式会社